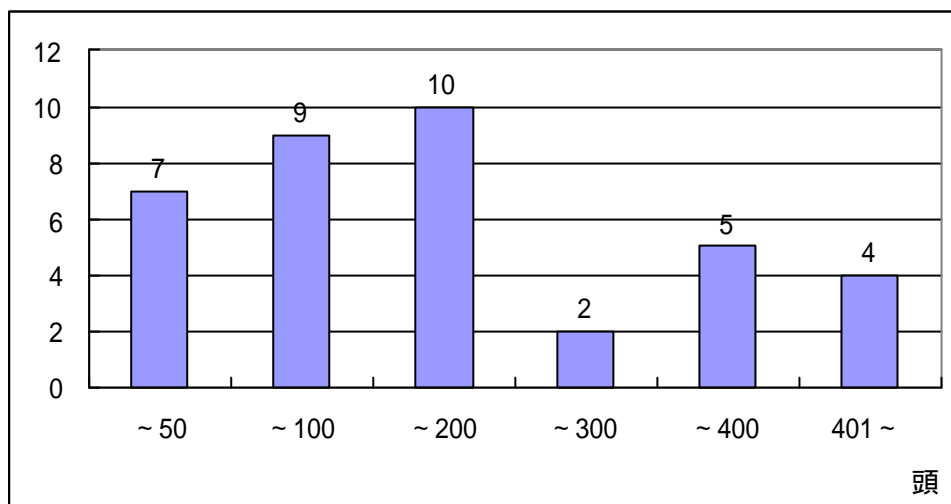


牧場見学等の取り組みについてのアンケート結果(肉用牛)

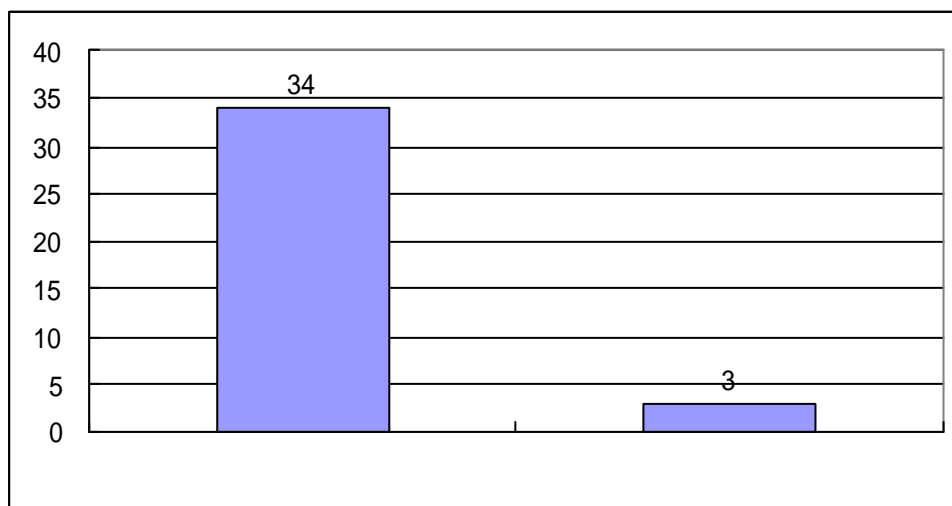
回答者数 37人

【飼養規模】肥育牛



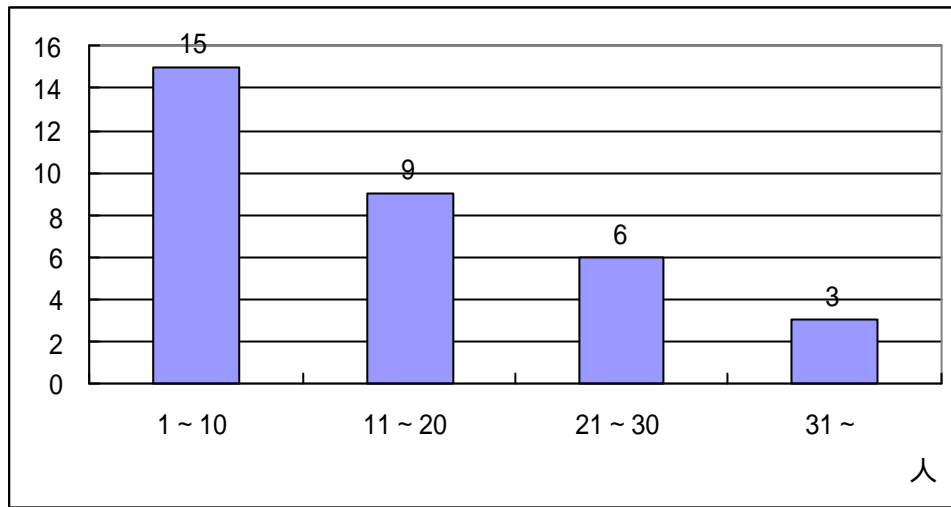
これまでに経験した牧場見学等の実態についてお尋ねします。

- Q1 最近3年間のうちにあなたの牧場へ、消費者、児童・生徒等の牧場見学等がありましたか？
あった なかった （ の「今後について」の回答をお願いします。）

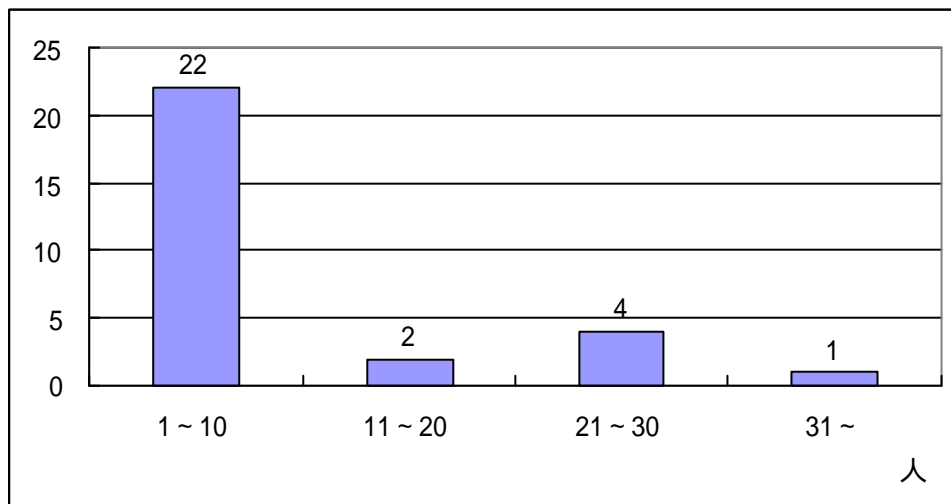


Q2 見学等の参加人数、回数等は？

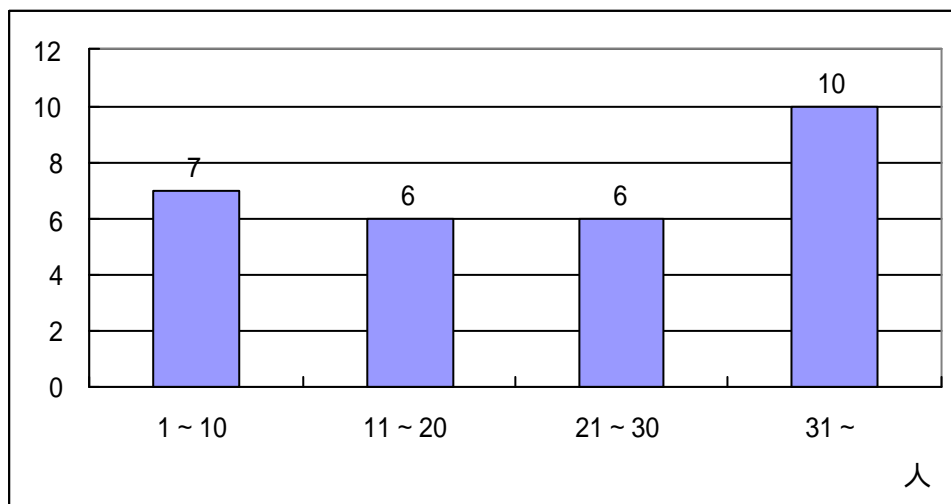
ア)1 回当たり平均で何人程度ですか



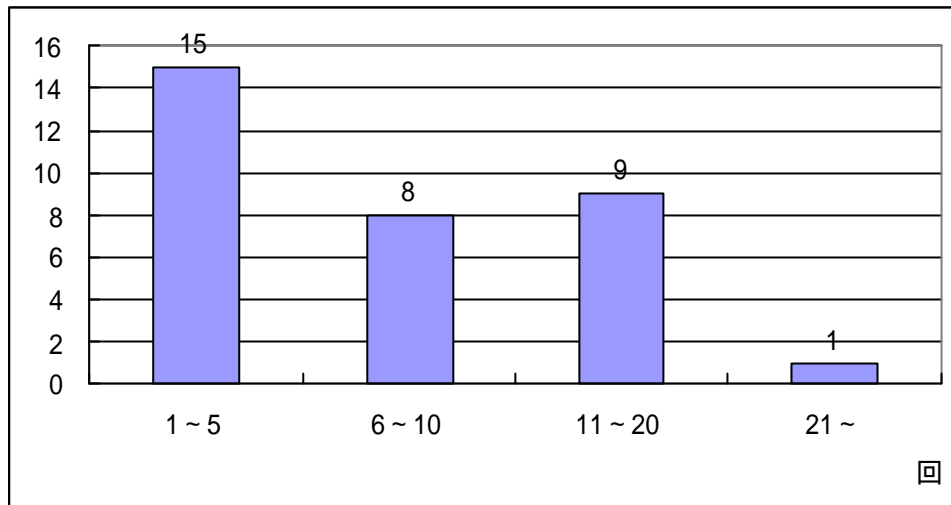
少ない場合は何人程度ですか



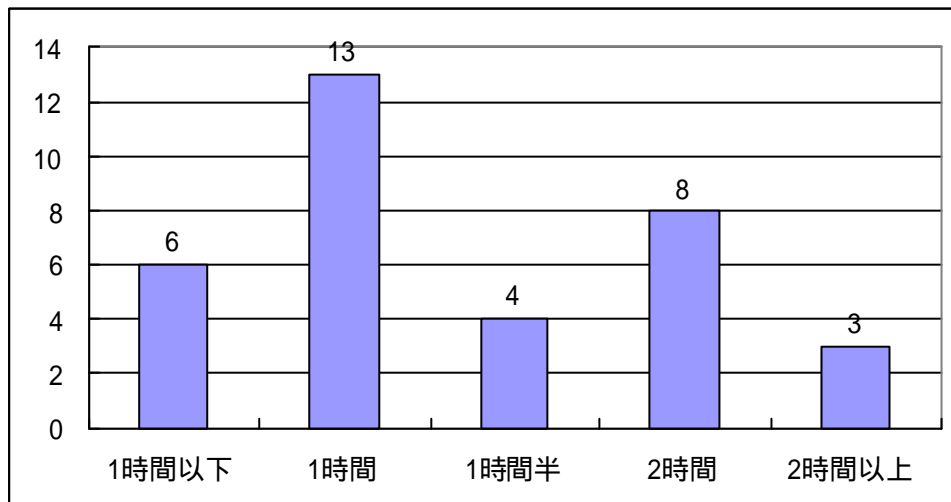
多い場合は何人程度ですか



1)この3年間で何回程度ですか

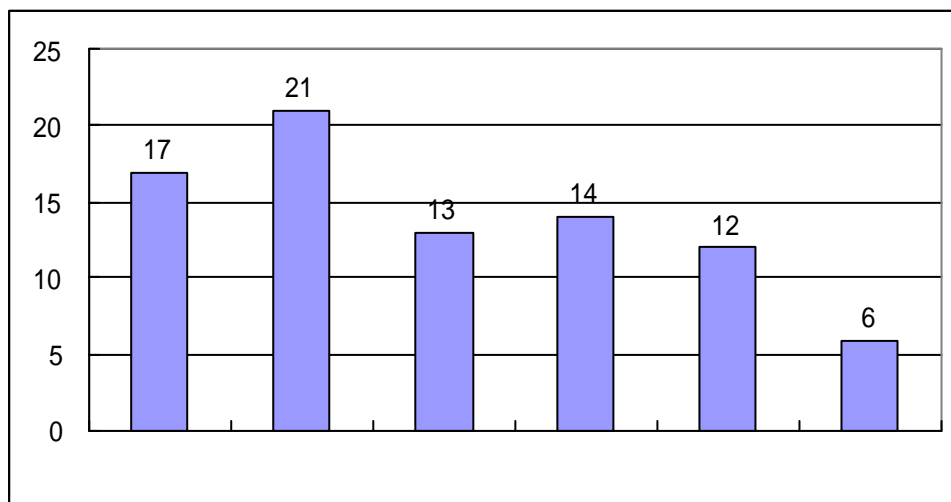


ウ)1回当たりの平均的な所要時間は何時間程度ですか(訪問者の牧場滞在時間)



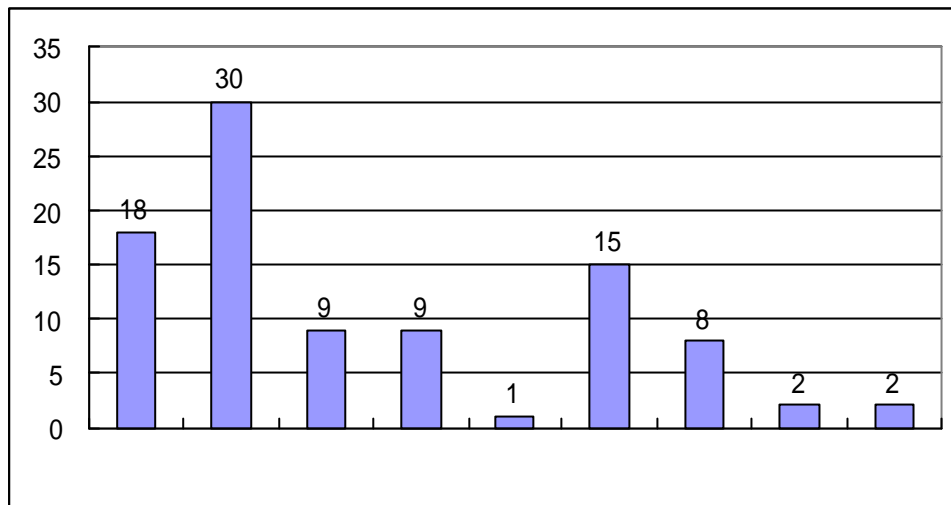
Q3 見学等牧場を訪問した対象者は?(複数回答可)

保育園・幼稚園児 小学生 中学生以上の学生 一般消費者 顧客
その他(外国人、同業者、韓国人同業者の研修)



Q4 牧場を訪問して実施した内容は？（複数回答可）

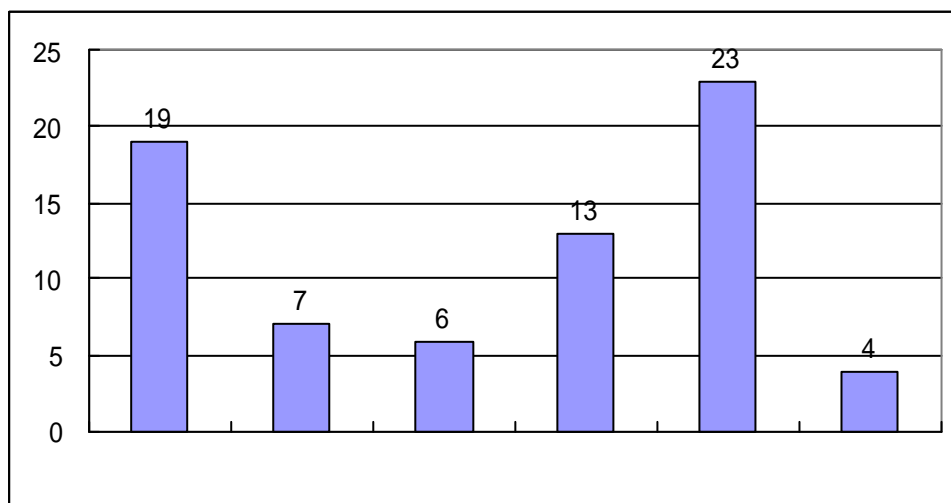
場内見学 畜舎内見学 スケッチ エサやりなど飼育体験の一部 畜産物加工
 意見交換 職場体験 トラクタ試乗等 その他



Q5 牧場訪問を受けて、よい効果が生まれましたか？（複数回答可）

畜産の理解に役立った 畜産物の理解に役立った 販売促進に繋がった
 食育の一環に寄与できた 訪問者に喜んでもらった
 その他

(肥育の意見交換、なし、女子二人が中学卒業後今年来場してくれた、自分たちも勉強になった)



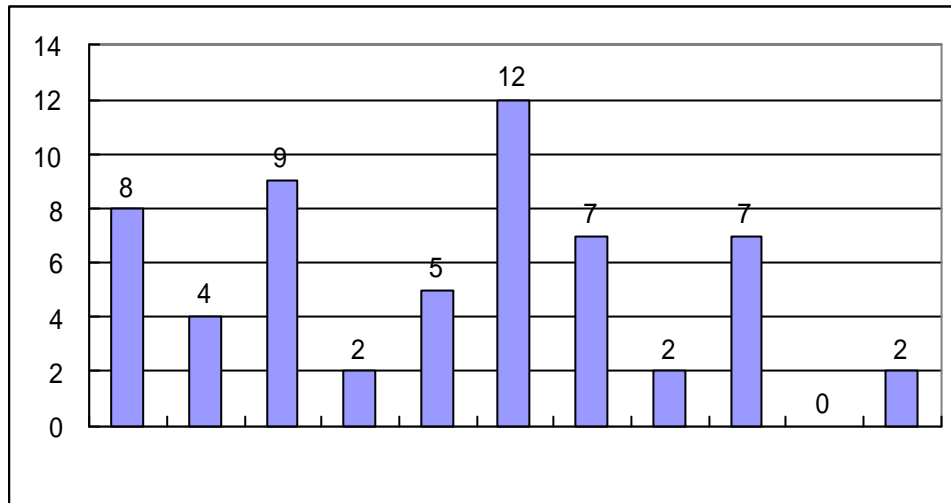
Q6 牧場訪問を受けて、困ったことはありますか？（複数回答可）

訪問前の準備が大変
見学者の態度に不満がある
資料が作れない
その他（なし、
町外の中学校からの依頼でしたが申し分のない生徒でした）

訪問者への説明が負担
家畜へのストレス等の影響が心配
訪問者の事故が心配

時間に拘束される
防疫について不安
訪問により悪い印象が残った

費用がかかる



Q7 牧場見学、食育活動等に関してご意見がありましたらご記入下さい。

- 牧場見学については、賛否両論あると思うが、個人的には良い事だと思う。ただ、受け入れ側の衛生・環境に対する意識と訪問者のマナーと畜産に対する理解がある事が大切になってくると思う。そうでないと、お互いが嫌な思いになる。
- 子供対象の見学に対しては、やはり興味を持ちそうな話をしてあげると自然に慣れてくれると思う。
- 動物の“におい”についても、臭いで片付けしないで、特有のにおいについても正しく教える必要があると思う。
- 食育の重要性を強く感じています。生産現場にふれることで得た感動や知識から、来場者各々が暮らす環境・生活様式・食生活を見直すきっかけになればと考えています。
- 当牧場は中学生の体験学習に10年間取り組んでいる。中学生でもよく頑張るし、何をしたいかを見つける学生もいる。
- 見学のときは良いが、後で個人で来るのは困る。
- もっと見学者があってもよい。肥育牛について充分説明します。
- 食育の観点から飼育の大変さ(苦労)等知り、いただく食の感謝の心を教えること。
- 楽しんでもらえ、喜ぶ子供の顔が嬉しい。
- 子供達に農業の一環として畜産の現状を説明して、もっと家畜に理解を持って頂くために、手で家畜に触れることに重点をおいています。
- 大人に対して食育について自分の考えを示しています。

今後の牧場見学等についてお尋ねします。

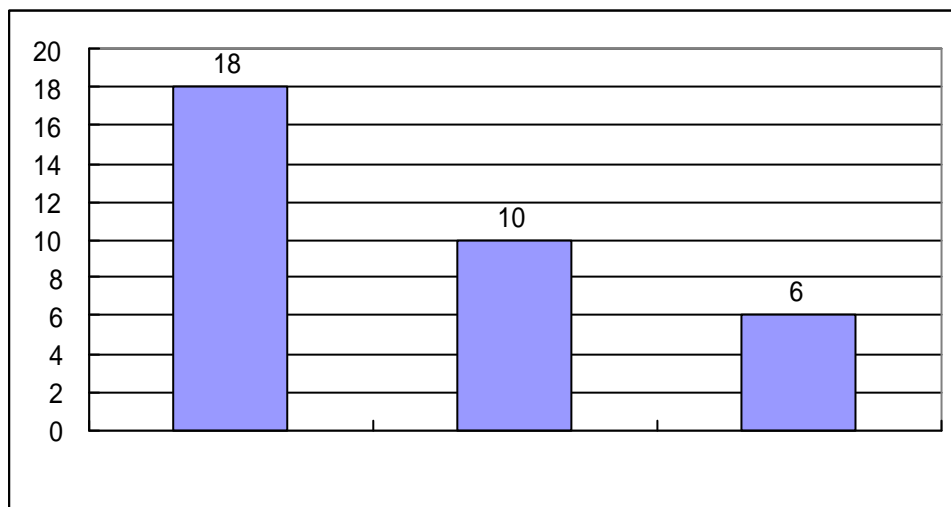
Q1 今後も牧場見学等を受け入れますか？

受け入れる

条件により受け入れる

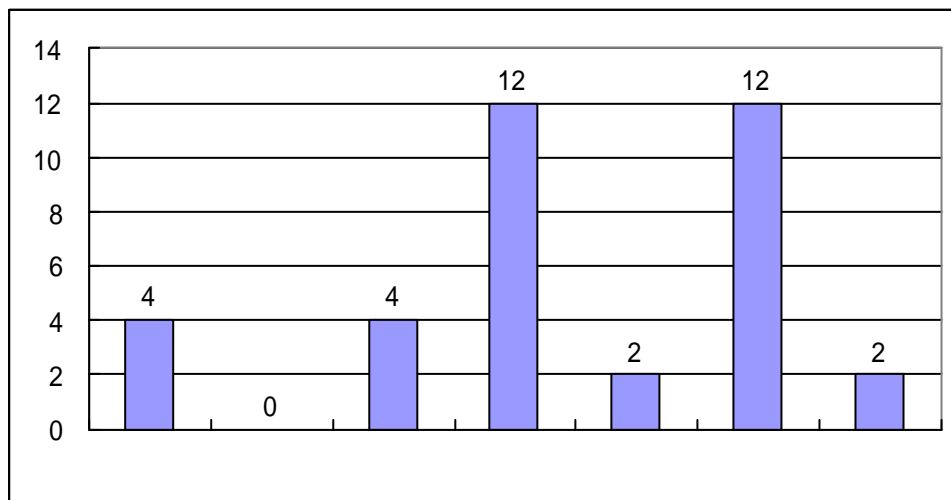
- 【具体的に】
- 勝手に見て頂いている
 - 一般常識だけは必要と考える
 - 見学時間が少ない
 - 春(3・4月)か秋(10・11月)
 - 職場体験のみ
 - 説明したり、指導したりする時は無理
 - 受入の時期・人数
 - 見学者に真剣さのある場合
 - 生協関係者
 - 当方の人手の都合など

受け入れは困難



Q2 牧場見学等を受け入れる場合、必要と思われること何ですか？（複数回答可）

- 事前準備の支援
- 訪問者等からの費用負担
- 訪問者へのサポート(他組織の支援)
- 事故対策(保険も含めて)
- 他牧場の対応状況についての情報
- 地域との共存意識
- その他(犬などが多いためこわい、なし、パンフレット作り)



Q3 今後、牧場見学等を受け入れたり食育活動等に参加したりするに当たり、ご意見がありましたらご記入下さい。

- 食育、また職場体験等協力してやりたい思いもあるが、当方自体が人手不足・高齢化のため年々難しくなっているのが現状です。
- 生産現場のひとつコマを切り取ってお膳立てしても、人はあまり感動してもらえません。むしろありのままの姿を見て頂くことで、意外なところに感動したり、驚いたりします。それらが心に残り、消費者と生産者の距離を縮め、お互いの理解を得られるものと感じます。
- 来訪者が何を知りたいかを早くつかんで、その点を重点に説明してあげるように心がけている。
- 小学3年生の30名の生徒達が見学した時は、非常に熱心で礼儀正しく良かったが、大人が小さな子供達を連れてくる場合は大変やりにくい。
- 地元の子供達が牧場へ見学に来てくれて、食卓に牛肉が並ぶまでの過程を少しでも理解してもらえれば良いと思います。
- なんでもスーパーで買うものと思いがちな現代の子供達に、専門店の魅力も伝えられたら良いなと思います。
- 牧場見学も必要な事でしょうが、食育問題にとってより重要になるのは、と殺場以降の流通問題ではないでしょうか。食肉及び内臓問題をより開かれたものにする会議を行っていくべきだと思います。
- 小さい子供さんが来てくれる時は、しっかり先生方が監督してほしい。
- 犬が少なくなった時、いつでも20人くらい見学OKです。
- 平和な時代に育った若い人達、お金を出せばなんでも手に入れている人達に、資源のない日本にとっていつまでもこの現状が続く事がない事を自分なりに生活を示して理解を求めています。いかに国の自給率を高めていくか、農業の一等国が世界の真の先進国であると信じて、多くの人と接していきたいと思っております。
- いつでも受け入れます。
- 今の時代背景から生き物に対する(動物等)愛情が育まれる事が必要と思うので、国・県等では積極的にこういった事を進める事を提案します。
- 我が家では地元小学校の依頼を受け、牧場見学を始めて今年で7年目になります。毎年、5年生の生徒さんが地元の畜産業の学習をしたいという事で、我が家の牧場にも見学に来てくれます。毎年1年を通し、我が家の牧場見学、私が学校に招かれパワーポイントを使っての話、子供達独自のインターネットを活用しての学習を進めた後、子供さん達は松阪食肉公社での牛のと畜を見学し、家畜衛生保健所でも色々な事をまなび、畜産業を理解し、興味を持ってもらおうと同時に、食の大切さ、命の大切さも学び取ってもらっている様です。また、自分達が普段何気なく口にしているお肉ですが、たくさんの方がかかわってくれている有り難さも学んでくれています。畜産の現場だけに留まらず、色々な現場の方が関わる事で、より効果的な食育・命の勉強ができ、大変良いことだと思っております。牧場見学を引き受けた当初は、場内の掃除が大変に思ったり、自分たちも慣れないものだから、子供達の前で話す事が、重荷になったりしていたのですが、回数を重ねるうちにこうする事の大切さがヒシヒシと感じられ、今では私達にこのような機会を与えて下さった先生に感謝の気持ちでいっぱいです。子供達もたくさん学んでくれている様ですが、私達も大変勉強になっています。今後も引き続きこの体制がずっと続き、ずっと続けていけたらいいと思います。